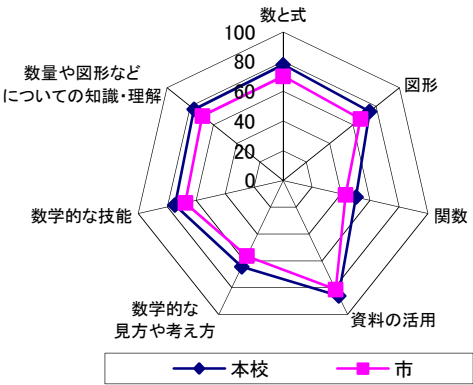


宇都宮市立豊郷中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	数と式	77.9	70.1
	図形	74.4	66.4
	関数	50.3	43.0
	資料の活用	86.1	81.4
観点別	数学的な見方や考え方	64.5	56.4
	数学的な技能	74.7	67.5
	数量や図形などについての知識・理解	76.8	69.6



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	この領域の本校の平均正答率は77.9%で、宇都宮市の平均を7.8ポイント上回った。 乗法公式を使った因数分解や平方根の計算、平方根の乗法、解の公式の使い方、2次方程式の意味を問う項目については、市の平均を9～13ポイント上回っており、基本的な計算力が身についていると考えられる。	計算力を高めるため、引き続き授業での分かりやすい説明に努める。また、単純な計算ミスをしないこと、計算の速度を上げることを目標に、反復学習と家庭学習の定着に力を入れるようにする。
図形	この領域の本校の平均正答率は74.4%で、宇都宮市の平均を8ポイント上回った。 特に、合同の証明を記述する問題では、市の平均を12.9ポイント、全国の平均を22.6ポイント上回った。また、この項目の無回答率は市の平均より11.8ポイント下回る結果となったことから、証明の流れを理解し記述問題にも意欲的に取り組む生徒が多いことが分かる。	数学的な考え方を育むため、一つの図形をいろいろな方向から見たり、複数の解き方に触れさせたりする機会を増やす。平行四辺形に関する定理については理解が不十分である生徒が見られるため、反復学習を取り入れる。また、生徒ひとりひとりの習熟度に対応するため、TTによる個別指導を取り入れる。
関数	この領域の本校の平均正答率は50.3%で、宇都宮市の平均を7.3ポイント上回った。 どの項目についても、市の平均を7～9ポイント上回っているが、正答率は全て40%を切っており、関数の領域に対する理解力の低さが目立っている。	関数の領域に対して苦手意識をもっている生徒が多いため、授業の展開においては丁寧で分かりやすい説明に努める。関数の考え方は、規則性の問題を考える上でも有効であるため、さまざまな場面を扱うことで関数に慣れさせていく。また、生徒一人一人の習熟度に対応するため、TTによる習熟度別学習や個別指導を取り入れる。
資料の活用	この領域の本校の平均正答率は86.1%で、宇都宮市の平均を4.7ポイント上回った。 どの項目も80～93%と高い正答率である。確率の領域について基礎基本が定着していると言える。	確率に関しては多くの生徒が理解しているため、今後も引き続き生徒の実態に応じた指導に心掛ける。今回の問題には出題されていないが、確率と規則性が絡んだ応用問題には抵抗がある生徒が多いので、発展的課題として扱う時間の確保に努める。